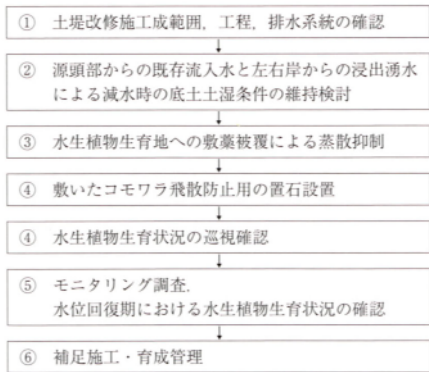



## 個票 7 改修工事によるため池減水時の底土の乾燥防止〔池 2(1)①2-1〕

(2011年作成)

配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の保護・保全
配慮事項	希少種の保全		
配慮事例	希少植物の生育環境や生活史などを踏まえた生育環境の保全・復元・創出及び移植方法の検討		
内容	<p><b>●改修工事によるため池減水時の底土の乾燥防止</b></p> <p><b>【解説】</b></p> <p>改修工事により夏期にため池の水を抜く場合、底土が乾燥して、土壌中に生息・生育する生物に影響を与えることから、底土はできるだけ乾燥させないような工夫が必要です。なお、冬期の減水は伝統的な維持管理の中で行われてきたことで、むしろ生物多様性の向上につながることから、この対策は必要はありません。</p> <p><b>【具体的な工法・配慮事項】</b></p> <p><b>●こもによる乾燥防止</b></p> <p>①減水後、池底にこもを敷いて乾燥を防止します。風によるこもの飛散を防ぐため、現地発生土を上を敷きます。</p> <p>②池底一面に敷かなくても、部分的に敷くだけで、全体的な乾燥防止になります。</p> <p><b>●滞筋の誘導</b></p> <p>源頭部や湧水がさす部分では、水が広範囲に行き渡るように滞筋を広げて、底土の乾燥を防ぎます。</p> <p><b>【事例】</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【場所】</b> 新潟県中魚沼郡「義ノ窪池」整備事業</p> <p><b>【環境配慮の内容と方法、工法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こもによる底土の乾燥防止</li> <li>・ 滞筋の誘導</li> </ul> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="flex: 1;">  <pre> graph TD     A[① 土堤改修施工範囲、工程、排水系統の確認] --&gt; B[② 源頭部からの既存流入水と左右岸からの浸出湧水による減水時の底土土湿条件の維持検討]     B --&gt; C[③ 水生植物生育地への敷葉被覆による蒸散抑制]     C --&gt; D[④ 敷いたコモワラ飛散防止用の置石設置]     D --&gt; E[④ 水生植物生育状況の巡視確認]     E --&gt; F[⑤ モニタリング調査、水位回復期における水生植物生育状況の確認]     F --&gt; G[⑥ 補足施工・育成管理]                     </pre> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">こもによる底土の乾燥防止</p>		
	参考資料	1 「自然再生：生態学的アプローチ」 亀山章・倉本宣・日置佳之	